

小学生への **おすすめ本** リスト



も く じ

1 年生	1
2 年生	7
3 年生	13
4 年生	19
5 年生	25
6 年生	31
ノンフィクション	37
科学読み物	43

1年生

おいしいのぼうけん

ふるたたるひ・たばたせいいちノサク

童心社 1974年 Eオ



さくらほいくえんのこわいものは、先生がいうことをきかない子どもを入れる“おいしい”。それから、にんぎょうげきに出てくる、子どもをたべるという“ねずみばあさん”。

ある日、あきらとさとしはミニカーをとりあって、先生においしいの中に入れてられてしまいます。

三びきのやぎのがらがらどん

マーシャ・ブラウンノエ セタていじノヤク

福音館書店 1965年 Eサ



むかし、3びきのやぎがいて、名まえはどれも“がらがらどん”といいました。山に草をたべにいこうとしますが、とちゅうのはしの下には、きみのわるい大きなトロルがすんでいます。3びきのやぎのがらがらどんは、ぶじに山へいけるのでしょうか。

すてきな三にんぐみ

トミー＝アンゲラーノサク いまえよしともノヤク

偕成社 1969年 Eス



くろいぼうしにくるマントの3人ぐみは、おどしどうぐで人びとをこわがらせていました。ある日、3人ぐみは、みなしごのティファニーちゃんをゆうかいし、かくれがにつれていきました。ティファニーちゃんはそこで3人ぐみがあつめたたからの山を見つけました。

だいくとおにろく

松居直 / 再話 赤羽末吉 / 画

福音館書店 1967年 Eタ



むかし、はしをかけても、すぐにながされてしまう川がありました。人びとにたのまれ、だいくがはしをかけようと川にいくと、おにがあらわれます。おには「おまえの目玉をよこしたら、かわりにはしをかけてやる」といいます。

てぶくろ

エウゲーニー・M・ラチョフ / え うちだりさこ / やく

福音館書店 1965年 Eテ



おじいさんが、森で手ぶくろをかたほうおとしていきました。ねずみが見つめて、手ぶくろにすむことにしました。そこへ、かえるがきて「わたしも入れて」といいます。そのあとも、つぎつぎにどうぶつがやってきます。

どろんこハリー

ジーン・ジオン / ぶん マーガレット・ブロイ・グレアム / え わたなべしげお / やく

福音館書店 1964年 Eト



くろいぶちのある白い犬のハリーは、お風呂に入るのが大きらい。そとへにげ出し、あそんでいるうちに、まっくろによごれてしまいます。いえにかえっても、ハリーだとわかってもらえません。こまったハリーはどうしたでしょう。

ねこのくにのおきやくさま

シビル・ウェッタシンハノサク　まつおかきょうこノヤク
福音館書店 1996年 Eネ



ねこのくにに、大きなおめんをかぶって目のさめるようないしょうをきた、ふたりのふしぎなおきやくがやってきました。ふたりは、うたをうたいおどりをおどってみせました。よろこんだ王さまは、おめんをはずしてかおを見せるようにいいましたが、ふたりはけっしてはずそうとしません。

ぼくのかえりみち

ひがしちからノ作
BL出版 2008年 Eホ



がっこうを出たそらくんは、きょうは、どうろの白いせんの上をあるいてかえろうときめます。白いせんからおちないように、ゆっくりとあるきだしました。せんがとぎれたら、先へは行けません。そらくんは、いえにかえりつくことができるでしょうか。

まゆとおに

富安陽子ノ文　降矢ななノ絵
福音館書店 2004年 Eマ

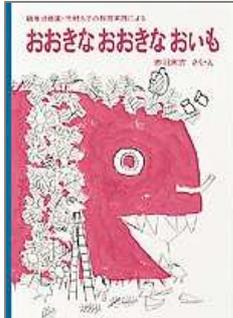


きたのお山のとっぺんに、やまんばとやまんばのむすめのまゆがすんでいました。ある日、まゆはおにに出あいます。おにをしらないまゆは、じぶんをたべようとしているのに気がつかず、おにについていってしまいます。

おおきな おおきな おいも

赤羽末吉 / さく・え

福音館書店 1972年 913ア



ここはあおぞらようちえん。きょうは雨がふったので、いもほりえんそくにいきません。でも、みんながいくまでに、おいもは大きくなってまっててくれるからだいじょうぶ。みんなはえのぐで、大きな大きなおいものえをかきました。

ふらいぱんじいさん

神沢利子 / 作 堀内誠一 / 絵

あかね書房 1969年 913カ

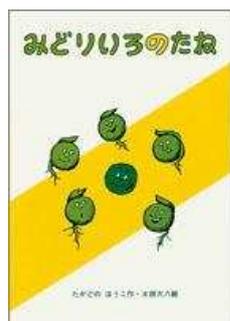


ふらいぱんじいさんはたまごをやくのが大すきでしたが、あたらしい目玉やきなべがきてから、たまごをやかせてもらえなくなりました。そこで、じいさんはいえを出て、あたらしいせかいをさがしにいきます。いったいどんなぼうけんをするのでしょうか。

みどりいろのたね

たかどのほうこ / 作 太田大八 / 絵

福音館書店 1988年 913タ



まあちゃんたちのクラスでは、はたけにえんどうまめのたねをうえることにしました。まあちゃんは、たねをうえるとき、くわえていたみどりいろのあめ玉をいっしょにうめてしまいました。

はじめてのキャンプ

林明子 / さく・え

福音館書店 1984年 913 八

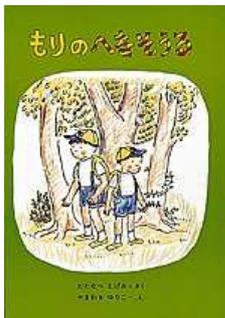


なほちゃんは、ちっちゃいおんなの子。大きな子どもたちのキャンプについていきたくてたまりません。じぶんのことはじぶんですというやくそくで、つれていってもらうことになりました。

もりのへなそうる

わたなべしげお / さく やまわきゆりこ / え

福音館書店 1971年 913 ワ



ちずをもってたんけんに出かけたてつたくんとみつやくんのきょうだいは、森で赤ときいろのしましまの大きなたまごを見つけます。また森へいくと、たまごのかわりに、赤ときいろのしましまのへなどうぶつがいました。そのどうぶつは、じぶんの名まえを“へなそうる”だといいます。

あおい目のこねこ

エゴン・マチャーセン / 作 瀬田貞二 / 訳

福音館書店 1965年 94 マ



ねずみのくにを見つけに出かけたあおい目のこねこは、たびのとちゅうで、5 ひきのきいろい目のねこたちに出あい、いっしょにくらすことにしました。

ある日、あおい目のこねこは、犬をおいはらおうとして、犬のせなかにとびのってしまいます。

2年生

アンナの赤いオーバー

ハリエット・ジーフェルト / ぶん アニタ・ローベル / え 松川真弓 / やく
評論社 1990年 Eア



せんそうがおわったら、アンナは、あたらしいオーバーをかってもらうことになっていました。ところが、せんそうがおわってもお店はからっぽで、食べものさえ売っていません。それに、アンナの家にはお金もありませんでした。

王さまと九人のきょうだい

君島久子 / 訳 赤羽末吉 / 絵
岩波書店 1969年 Eオ



子どものいないおばあさんが、ふしぎなろう人からもらったくすりをのむと、9人の子どもがうまれました。9人は顔もすがたもそっくりでした。あるとき、王さまのきゅうでんのはしらがたおれ、王さまは、これをもとどおりにできるものはいないか、国じゅうにおふれを出しました。

おとうさんのちず

ユリ・シュルヴィッツ / 作 さくま ゆみこ / 訳
あすなる書房 2009年 Eオ



ぼくたち家ぞくは、せんそうでなにもかもうしなって、遠い東の国までにげてきました。しかし食べるものがほとんど手に入らないつらい毎日です。そんなある日、パンを買いに行ったはずのお父さんが、1まいの大きな地図を買ってきました。

おしゃべりなたまごやき

寺村輝夫 / 作 長新太 / 画

福音館書店 1972年 Eオ

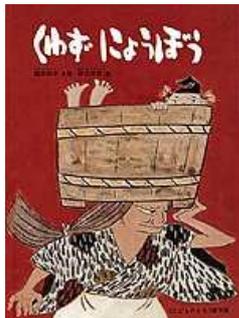


さんぽをしていた王さまは、にわとりごやにぎゅうぎゅうづめになっているにわとりを見つけ、かわいそうに思いこやの戸をあけました。すると、にわとりがとび出して、さあたいへん！おしろの人たちは、こやの戸をあけたはんにんをさがします。

くわずにょうぼう

稲田和子 / 再話 赤羽末吉 / 画

福音館書店 1980年 Eク



むかし、めしは食わないで、うんとはたらく、うつくしいむすめをにょうぼうにした男がいました。ところがある日、くらを見てみると、米だわらがごっそりへっています。そこで男が、天じょうからのぞいていると、にょうぼうがにぎりめしを作っていました。

子うさぎましろのお話

佐々木たづ / 文 三好碩也 / 絵

ポプラ社 1970年 Eコ

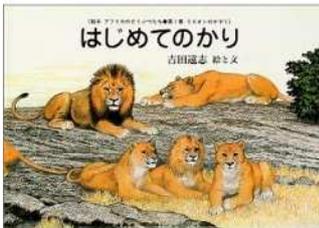


白うさぎの“ましろ”は、サンタのおじいさんからケーキとかざりをもらいました。つぎに、黒うさぎの子に見えるように、体にすみをぬりつけ、こんどは小さなたねをもらいました。ましろはすみをおとそうとしますが、どんなにこすってもとれません。

はじめてのかり

吉田遠志 / 絵と文

リブリオ出版 2001年 E八



かりに出かける時間なのに、かあさんライオンたちは昼ねをしています。3びきのわかいライオンは、自分たちだけではじめてのかりに出かけることにしました。草原そうげんに出た3びきは、たくさんのどうぶつの中から、ヌーをねらうことにしました。はじめてのかりはうまくいくのでしょうか。

びゅんびゅんごまがまわったら

宮川ひろ / 作 林明子 / 絵

童心社 1982年 E七



かえで小学校には、みんなが大すきなあそび場があります。ところが、1年生のこうすけが、そこで足のほねをおっ
てしまい、その日から、中には入れなくなりました。どうしてもそこであそびたいこうすけたちは、新しく来た校長先生におねがいに行きます。

わたし おてつだいねこ

竹下文子 / 作 鈴木まもる / 絵

金の星社 2002年 913夕

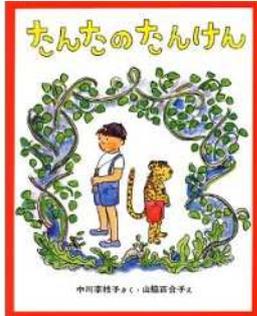


おばさんは朝から、そうじにせんたくに大いそがし。「ねこの手もかりたいくらいだわ」とひとりごとを言ったとき、げんかんのチャイムがなりました。本当にねこがやってきたのです。ねこにお手つだいができるのでしょうか。

たんたのたんけん

中川李枝子 / さく 山脇百合子 / え

学研 1971年 913ナ

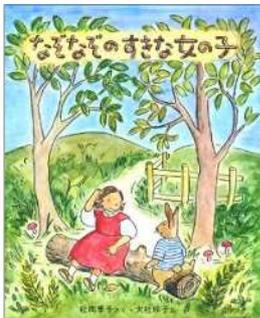


たんじょう日の朝、まどからてがみがとびこんできて、中に1まいの地図が入っていました。たんたはその地図をもって、さっそくたんけんに出かけます。すると、どこからか、ひょうの子バリヒがあらわれて、後をついてきました。

なぞなぞのすきな女の子

松岡享子 / さく 大社玲子 / え

学研 1973年 913マ



あるところになぞなぞのすきな女の子がいました。女の子は、なぞなぞのあいてをさがしに森へ行き、オオカミに出会います。オオカミは女の子を食べたいと思っていましたが、女の子はつぎつぎになぞなぞを出しました。

番ねずみのヤカちゃん

リチャード・ウィルバー / さく 松岡享子 / やく 大社玲子 / え

福音館書店 1992年 93ウ



ドドさんの家には、おかあさんねずみと、4ひきの子ねずみがすんでいました。子ねずみのうちの1ぴきは、声が大きいので「やかましやのヤカちゃん」とよばれていました。ヤカちゃんの声はいったいどのくらい大きいのでしょうか。

黒ねこのおきやくさま

ルース・エインズワース / 作 荒このみ / 訳 山内ふじ江 / 絵
福音館書店 1999年 93エ



まずしい一人暮らしのおじいさんの楽しみは、土曜日の夜だけ食べるおいしい肉とミルクにひたしたパンです。ある雨の夜、おじいさんは、外にいたみすぼらしい黒ねこを家の中に入れ、大事に食べようと思っていた肉やミルクをねこにやりました。

こぐまのくまくん

E・H・ミナリック / ぶん モーリス・センダック / え まつおかきょうこ / やく
福音館書店 1972年 93ミ



こぐまのくまくんは、自分のおたんじょう日に友だちをよびました。でも、お母さんのすがたがなく、バースデーケーキも見当たりません。そこでくまくんは、かわりにバースデースープを作ることにしました。この「くまくんのおたんじょうび」のほか、4つのみじかいお話がのっています。

わたしのおかあさんは^{せ かい い ち}世界一びじん

ベッキー・ライアー / ぶん 光吉郁子 / やく ルース・ガーネット / え
大日本図書 2010年 93ラ



夏のある日、ワーリヤはいつのまにかねむってしまいました。目をさますと、お母さんがいません。あちこちさがしましたが、見つかりません。知らない人たちに、お母さんの名前を聞かれて、「わたしのおかあさんは^{せ かい い ち}世界一びじん！」と言いました。お母さんは見つかるでしょうか。

3年生

けんかのきもち

柴田愛子 / 文 伊藤秀男 / 絵
ポプラ社 2001年 Eケ



ある日、たいは一番なかよしのこうたと、けんかをしてしまいました。けてパンチしてつかみかかったけど、こうたはとても強くて、かないませんでした。くやしくてなきました。先生から声をかけられても、返事もしたくありません。

ちいさいおうち

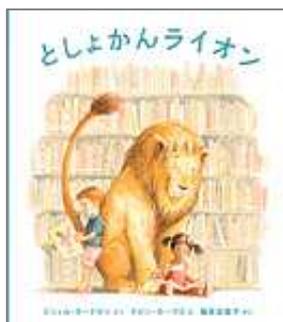
ばーじにあーりー・ばーとん / ぶんとえ いしいももこ / やく
岩波書店 1965年 Eチ



しずかないなかのおかの上に、小さいおうちがたっていました。小さいおうちは、まわりの美しいしぜんをながめながら、長い間幸せにくらしていました。ところが、とつぜん小さいおうちの前に道ができ、車が走りはじめ、やがて電車や地下鉄も通る、大都会になります。

としょかんライオン

ミシェル・ヌードセン / さく ケビン・ホークス / え 福本友美子 / やく
岩崎書店 2007年 Eト



ある日、図書館にライオンが入ってきました。決まりが守れるならいいと館長に言われたライオンは、図書館に来る人たちともなかよくなり、仕事のお手つだいもするようになります。ところが、けがをした館長を助けるため、決まりをやぶってしまいます。

ねずみのとうさんアナトール

イブ・タイタス / 文 ポール・ガルドン / 絵 晴海耕平 / 訳

童話館出版 1995年 Eネ



アナトールは、おくさんと6人の子どもがいるとうさんねずみで、家族のために食べものをさがしに人間の家に入りこみます。ある夜、アナトールは人間がねずみをきらっていると知って、ショックを受けました。かれは、人間にみとめてもらえるように、何かお返ししようと考えます。

やまなしもぎ

平野直 / 再話 大田大八 / 画

福音館書店 1977年 Eヤ



むかし、病気のお母さんのために、3人の兄弟はやまなしもぎに行くことにしました。ところが、1番目のたろうと、2番目のじろうは、なかなかもどってきません。そして、3番目のさぶろうもやまなしもぎにでかけることになりました。

チョコレート戦争

大石真 / 作 北田卓史 / え

理論社 1965年 913才



明の住んでいる町には、^{きんせんどう}“金泉堂”という有名なおかしやがありました。ある日、明は友だちと金泉堂のショーウィンドーでチョコレートの^{しろ}城を見ていました。すると、とつぜんガラスがわれ、明はその^{はんにん}犯人にされてしまいます。明は友だちと相だんし、金泉堂にたたかいをいどみます。

ぽっぺん先生のどうぶつ日記 ~

舟崎克彦 / 著

パロル舎 2001年 913フ



ぽっぺん先生は大学の生物学^{せいぶつがく}の先生で、どんな生き物とも話することができます。『へんてこヒヨドリ』では都会^{とかい}で育ったヒヨドリが、先生の手^ての平にタマゴをうんでしまいます。『ギンギラかいじゅう』では森であばれるかいじゅうをたいじしてくれと、動物たちがやってきます。

みしのたくかにと

松岡享子 / 作 大社玲子 / 絵

こぐま社 1998年 913ミ



ある日、ふとっちょおばさんは、戸だなから見つけた黒いたねをまきました。何のたねかわからないので、そばに「あさがおかもしれない、すいかかもしれない、とにかくたのしみ」と書いた^{ふだ}札を立てました。さて、どんなめが出てくるのでしょうか。

エルマーのぼうけん

ルース・スタイルス・ガネット / さく ルース・クリスマン・ガネット / え わたなべしげお / やく

福音館書店 1963年 93カ



エルマーは、年とったのらねこから、どうぶつ島の川岸に、首を太いなわでしばりつけられているりゅうの子どものことを聞き、助けに行くことにしました。チューインガム、ぼうつきキャンデー、わゴム、ゴム長ぐつ、じしゃく^{しょくりょう}、食料などをリュックにつめこんで、さあ出発です。

ポリーとはらぺこオオカミ

キャサリン・ストー / 作 掛川恭子 / 訳

岩波書店 1979年 93ス



ポリーの家にはらぺこのオオカミがやって来ました。オオカミはポリーを食べようとしたのですが、代わりにおいしいパイをごちそうになって帰って行きました。その後もオオカミは、なんとかポリーを食べようとしますがうまくいきません。

こちらゆかいな窓ふき会社^{まど}

ロアルド・ダール / 作 清水達也・清水奈緒子 / 訳 ケンティン・ブレイク / 絵

評論社 1989年 93タ



ある日、サルとペリカンとキリンが、“はしご^{はしご}不用窓^{ふようまど}ふき会社”を始めました。キリンはどこまでものびる首ではしごになり、ペリカンはくちばしに水をためてバケツになり、身軽なサルが窓をふいていきます。ハンプシャー公爵^{こうしゃく}のおやしきで、さっそく窓ふきの仕事を始めました。

ものぐさトミー

ペーン・デュボア / 文・絵 松岡享子 / 訳

岩波書店 1977年 93テ



トミー・ナマケンボ”は電気じかけの家に住んでいます。顔あらい、着がえ、食事、歯みがきなどすべて自動装置^{じどうそうち}がしてくれます。ところがある日、あらしで家が停電^{ていでん}になってしまいました。なまけんぼのトミーはその間、ずっとベッドでねむりつづけていました。そして7日目の朝、自動装置が動き出しました。

あたまをつかった小さなおばあさん

ホープ・ニューウェル / 作 松岡享子 / 訳 山脇百合子 / 画
福音館書店 1970年 93二



あるところに、ひとりの小さなおばあさんがいました。おばあさんは大へんびんぼうでしたが、上手に頭を使って、何事もうまくやっていました。はねぶとんを作るために、がちょうを買いましたが、はねをむしれば、がちょうが寒くてかわいそうです。さあ、頭を使うときがやってきました。

ぺちゃんこスタンレー

ジェフ・ブラウン / 文 トミー・ウンゲラー / 絵 さくまゆみこ / 訳
あすなる書房 1998年 93フ



スタンレーは、ある朝起きてみると、板の下じきになって、ぺちゃんこの体になっていました。始めはとまどっていたスタンレーですが、ぺちゃんこの方がべんりなこともあります。部屋にはドアの下から出入りできるし、遠くに行くときは、ふうとうに入って、こうくうびんでとどけてもらえます。

チキチキバンバン ~

イアン・フレミング / さく ジョン・バーニンガム / え こだまともこ / やく
あすなる書房 2010年 93フ



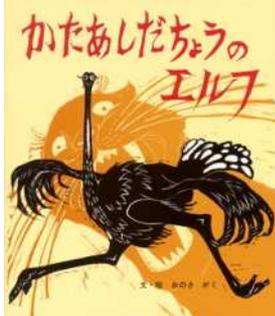
ポットさん一家は、さびて、こわれて、あちこちがへこんでいる4人乗りのオープンカーを買いました。発明家のお父さんが修理をして、^{しゅうり}“チキチキバンバン”と名前をつけた車は、じゅうたいにまきこまれたとき、ついているつばさが^{うわむ}上向きになり空をとんだのです。

4年生

かたあしだちょうのエルフ

おのきがく / ぶん・え

ポプラ社 1970年 Eエ



エルフは、わかくて強くてすばらしく大きなおすのだちょうです。子どもが好きなエルフはみんなの人気者でした。ある日、エルフはライオンから仲間を守るために戦い、かたあしを食いちぎられてしまいます。子どもたちと遊ぶことも、十分にえさをさがすこともできなくなったエルフを、仲間たちは忘れていきました。

かあさんをまつふゆ

ジャクリーン・ウッドソン / 文 E.B.ルイス / 絵 さくまゆみこ / 訳

光村教育図書 2009年 Eカ



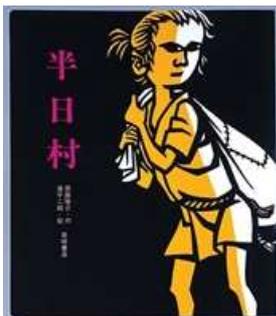
戦争で男の人たちがいなくなり、黒人の女でも働き口があると聞いたエイダの母さんは、出かせぎに行くことになりました。エイダとおばあちゃん二人きりの生活が始まります。毎日の食事にも困る中、母さんに何通も手紙を書きますが、返事は来ません。

はんにちむら

半日村

斎藤隆介 / 作 滝平二郎 / 絵

岩崎書店 1980年 E八



はんにちむら
半日村は後ろにとても高い山があって半日しか日が当たりません。だからとても寒く、米は他の村の半分しかとれないため、みんなやせて元気がありませんでした。ある夜、「あの山さえなかったらう」と大人たちが話しているのを聞いた一平は、次の日からふくろをかついで山に登ります。

ぼく、ムシになっちゃった

ローレンス・デイヴィッド / 文 デルフィーン・デュラード / 絵 青山南 / 訳
小峰書店 2002年 Eホ



グレゴリーは朝起きると、なんとムシになっていました。びっくりしたグレゴリーでしたが、家族は気づきません。不安なまま、学校に行きましたが、友だちや、先生も特に何も気にすることなく話しかけてきます。親友のマイケルだけは、グレゴリーがムシになったことに気がついて、心配してくれました。

びりっかすの神さま

岡田淳 / 作・絵
偕成社 1988年 913オ



4年生の^{はじめ}始は、転校してきた日に、教室で小さなつばさのある20センチぐらいの男を見てしまいます。この男は、ビリになった子どものところにあらわれるのです。始は、わざと0点を取って、この“びりっかす”と話をしようとしています。みんながわざとビリになっていったので、^{たんにん}担任の先生は何かおかしいと、うたがい始めました。

黒ねこサンゴロウ(全10巻)

竹下文子 / 文 鈴木まもる / 絵
偕成社 1994年 913タ



^{とっきゅう}特急 マリン号でひとり旅に出たケンは、列車の中でサンゴロウという黒ねこに出会い、いっしょに失われたうみねこ族の^{たから さが}宝を探しに行くこととなります。うみねこ族の宝とはいったい何か。そして宝を見つけることができるのでしょうか。

いたずらおばあさん

高楼方子 / 作 千葉史子 / 絵

フレーベル館 1995年 913タ



84歳^{さい}の洋服研究家のエラババ先生は、1枚着ると1歳若くなる服を発明し、68歳のヒヨコルさんに見せました。エラババ先生が76枚着て、ヒヨコルさんが60枚着ると、ふたりは8歳の子どもになり、ひみつのぼうけんにくり出します。

じっぼ まいごのかっぱは くいしんぼう

たつみや章 / 作 広瀬弦 / 画

あかね書房 1994年 913タ



大洪水^{だいこうずい}の次の日、太郎はドブでカッパを拾い、“じっぼ”と名づけて、大人にないしょで飼^かい始めました。ところがある日、学校へ連れて行ったじっぼが、教頭先生に見つかり、生物学^{せいぶつがくけんきゅうしつ}研究室へ連れて行かれます。じっぼを救出するため、太郎はひとり大学の研究室へ乗りこみます。

ムジナ探偵局

富安陽子 / 作 おかべりか / 画

童心社 2007年 913ト



ムジナ探偵局^{たんていきょく}は、貉堂^{むじなどう}という古本屋の中にあります。古本屋の主人は、みんなから“ムジナ”とよばれていました。ムジナ探偵局には、いつも変わった事件が持ちこまれます。

うそつきロボット

アイザック・アシモフ / 作 小尾芙佐 / 訳 山田卓司 / 絵
岩崎書店 2003年 93ア



このお話には、4台のロボットがでできます。ロボットたちは“ロボット法 3原則”という決まりを絶対に守らなければなりません。この決まりを守らないと、ロボットはこわれてしまいます。そのために、きみような事件がおきて、人間はてんてこまいをします。

まじょ 魔女のたまご

マデライン・エドモンドソン / 作 ケイ・シューロー / 絵 掛川恭子 / 訳
あかね書房 1978年 93エ



山の鳥の巣に一人で住んでいるまじょ魔女アガサは、へそまがりて友だちがいません。ある日、この巣にたまごがうみつけれられます。アガサはもんくを言いながらもたまごを温め、うまれたひなを“マジヨドリ”と名づけて、楽しい日々をすごします。しかし冬が近づくにつれ、「マジヨドリ」はだんだん元気がなくなっていました。

火曜日のごちそうはヒキガエル

ラッセル・E・エリクソン / 作 ローレンス・ディ・フィオリ / 絵 佐藤涼子 / 訳
評論社 2008年 93エ



ヒキガエルの兄弟ウォートンとモートンは、仲良く土の中の家でくらしています。冬のある日、ウォートンは、おばさんの家にカブトムシのさとうがしをとどけに行くことにしました。しかし、そのとちゅう、ミミズクにつかまり、ウォートンは、“火曜日のごちそう”にすると言われま

たからもの ぬすまれた宝物

ウィリアム・スタイグ / 作 金子メロン / 訳
評論社 1977年 93ス



ガチョウのガーウェインはクマの王さまからあつく^{しんらい}信頼され、^{ほうもつ}宝物殿の見張り役主任をつとめています。ところが、しっかり見張っているはずの宝物殿から^{たからもの}宝物がなくなってしまう。かぎを持っているのは、王さまとガーウェインだけ。いったいどういうことでしょう。

ちびドラゴンのおくりもの

イリーナ・コルシュノフ / 作 酒寄進一 / 訳 伊藤寛 / 絵
国土社 1989年 94コ



ぐずでおくびょうな男の子ハンノーは、何をやってももうまくいなくていじめられるので、学校に行きたくありません。ある日ハンノーは、同じように学校がいやでドラゴンの国をぬけ出してきた、ちびドラゴンと出会い、友だちになります。ハンノーはちびドラゴンといっしょに、いろんなことにチャレンジします。

まじょ 小さい魔女

オフリート=プロイスラー / 作 大塚勇三 / 訳 ウィニー=ガイラー / 画
学研 1965年 94フ



小さい^{まじょ}魔女は、たったの 127 才だったので、年に一度のワルプルギスの夜の魔女の集まりにいれてもらえません。こっそりまぎれこみますが、“あらしの魔女”のルンペンペルおばさんに見つかって、空飛ぶほうきを取りあげられてしまいます。

5年生

ウエズレーの国

ポール・フライシュマン / 作 ケビン・ホークス / 絵 千葉茂樹 / 訳
あすなる書房 1999年 Eウ



はみだしもののウエズレーは、とつぜん自分だけの作物を育て、自分だけの文明をつくらうと思いつきました。作物の実を味わい、せんいでぼうしや服も作り、ゲームを考え...ウエズレーの国を遠くから見ていた近所の子たちも、だんだんおもしろそうだと気づきはじめます。

とべバツタ

田島征三 / 作
偕成社 1988年 Eト



小さなしげみの中に、1匹のバツタがかくれ住んでいました。そこにはバツタをねらうおそろしいものたちがいます。おびえながら生きることがいやになったバツタは、敵から食べられてしまうこと知りながら、大きな石のてっぺんでひなたぼっこをします。

ルピナスさん 小さなおばあさんのお話

バーバラ・クーニー / さく かけがわやすこ / やく
ほるぷ出版 1987年 Eル



ルピナスさんは、いつか遠い国に行き海のそばの町に住むという夢を持っていました。そして、おじいさんとは、“世の中をもっと美しくするために何かする”という約束をしていました。大人になった彼女は夢をかなえますが、約束を果たしていません。彼女はどのようにそれを果たすのでしょうか。

つづきの図書館

柏葉幸子 / 作 山本容子 / 絵

講談社 2010年 913カ



図書館で働く司書の桃^{もも}さんが、本だなの整理をしていると、はだかの王様が声をかけてきました。自分が出てくる絵本を読んでくれた青田早苗ちゃんの、その後が気になり出てきてしまったのです。桃さんの所には、おおかみやあまのじゃくなど、次々と絵本の登場人物があらわれます。

まじょ たつきゅうびん 魔女の宅急便

角野栄子 / 作 林明子 / 画

福音館書店 1985年 913カ



13歳^{さい}のキキはほうきで飛ぶことだけが得意な魔女です。ひとり立ちするために黒猫ジジとコリコの町にやってきました。なんとか住むところ^{さが}を探し、ほうきで空を飛んで荷物を届ける宅急便屋^{たつきゅうびん}さんの仕事を始めます。キキはたくさんの人と出会い、失敗して落ち込んだりしながらも町の人達に支えられ、少しずつ成長していきます。

ルドルフとイッパイアッテナ

斉藤洋 / 作 杉浦範茂 / 絵

講談社 1987年 913サ



ルドルフは飼^かいねこでしたが、まちがってトラックの荷台に乗り、知らない町まで来てしまいます。帰り道も分からずこまっていたところ、「おれの名前は、いっばいあってな」という大きなトラねこに出会います。ルドルフはそのトラねこからノラねことしての生き方や、字を習いながら元の町に帰る方法^{さが}を探します。

チビ竜と魔法の実 シノダ！ 1

富安陽子 / 著 大庭賢哉 / 画

偕成社 2003年 913ト

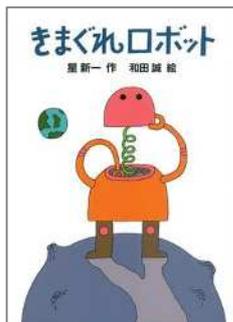


信田家は、パパとママとユイ、タクミ、モエの3人の子どもたちの5人家族です。一見ふつうの一家ですが、ママの正体がキツネで新月の夜に山に帰らなくてはならなかったり、おじいちゃんがキツネのすがたでやってきたりします。ある日、おふる場に小さな竜が迷いこんできます。なんとか追い出そうとしますが、うまくいきません。

きまぐれロボット

星新一 / 作 和田誠 / 絵

理論社 1999年(1966年) 913ホ

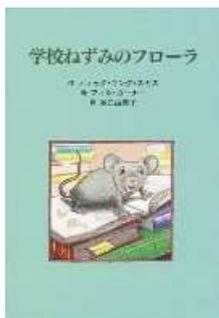


博士は、なんでもできるとも優秀なロボットをつくりました。それを聞いたお金持ちのエヌ氏は、大金を博士にはらい、ロボットを手に入れました。ロボットは料理だけでなく、部屋の掃除もしてくれます。しかし、何日かたつとロボットの様子がおかしくなります。ほかに、31編の話がまとめられているショートショート集です。

学校ねずみのフローラ

ディック・キング＝スミス / 作 フィル・ガーナー / 絵 谷口由美子 / 訳

童話館出版 1996年 93キ



学校に住んでいるねずみのフローラは、かべのあなからこっそり人間たちの授業をのぞき見して、字を読む勉強をしています。ある日、学校にねずみが住みつくことをよく思わない人間たちによって、ねずみ退治用の毒がしかけられます。そのことに気づいたフローラは命のきけんを知らせようとします。

がんばれヘンリーくん

ベバリイ・クリアー / 作 松岡亨子 / 訳 ルイス・ダーリング / 絵
学研 2007年(1969年) 93ク



小学生のヘンリーくんには面白いことが何一つ起こりません。ある日、まち角で、おなかをすかせてやせこけている犬に出会います。アバラーと名付けたその犬を家に連れて帰るため、こっそりバスに乗せますが、途中でアバラーが大あばれ。その日から、ヘンリーくんのまわりではゆかいな事件が次々と起こります。

こちら『ランドリー新聞』編集部

アンドリュー・クレメンツ / 作 田中奈津子 / 訳 伊藤美貴 / 絵
講談社 2002年 93ク



カーラは、担任のラーソン先生を痛烈に批判した新聞を教室に掲示します。しかし、先生はそれをきっかけに子どもたちに表現の自由を教え、表現する側の良心について教えはじめます。そして、それはもっと様々な事件へと発展していくのです。

そく ビーバー族のしるし

エリザベス・ジョージ・スピア / 著 こだまともこ / 訳
あすなる書房 2009年 93ス



18世紀のアメリカ。13歳のマツと父さんは、新しい開たく地に出かけて、丸太小屋をたてます。そして父さんが、母さんと妹をむかえに行く間、マツは7週間一人で家を守ることになります。

少年探偵ブラウン

ドナルド＝ソボル / 作 花輪莞爾 / 訳
偕成社 1977年 93ソ



“百科事典”というあだ名の 10歳の少年ロイ・ブラウン。細かい観察力と、ばつぐんの記憶力でどんな事件もあっという間に解決します。ロイは自分の家の車庫に探偵事務所を開き、事件の依頼を引き受けることにします。この本には 15 の短い話が入っています。それぞれの話が謎解きになっていて、読者も挑戦できます。

シャーロットのおくりもの

E.B.ホワイト / 作 ガース・ウィリアムズ / 絵 さくまゆみこ / 訳
あすなる書房 2001年 93ホ



田舎町のある農家に生まれた子ブタのウィルバーは、やがて別の農場に預けられ、そこでシャーロットというクモに出会いました。2匹が仲良しになったある日、ウィルバーは自分がクリスマスのハムにされてしまう運命だと知り、とても悲しみます。シャーロットはウィルバーを守ろうと約束します。

魔法使いのチョコレート・ケーキ

マーガレット・マーヒー / 作 石井桃子 / 訳 シャーリー・ヒューズ / 画
福音館書店 1984年 93マ



あるところに、チョコレートケーキを作るのがとても上手な魔法使いがいました。魔法使いはケーキを作り、町中の子どもをしょうたいします。でも、こわがってだれも来てくれません。ひとりぼっちの魔法使いは、リンゴの木を話し相手に、お茶の時間をすごすことにしました。10作品入っている短編集です。

6年生

かさをささないシランさん

谷川俊太郎 + アムネスティ・インターナショナル / 作 いせひでこ / 絵
理論社 1991年 Eカ



ある国に、シランさんという若者がいました。会社に勤め、日曜日は友達とテニスをする、ありふれた日常を過ごしていました。ところが、ある夜遅くに、玄関を開けると銃をかまえた兵隊が立っていました。

木を植えた男

ジャン・ジオノ / 原作 フレデリック・バック / 絵 寺岡襄 / 訳
あすなる書房 1989年 Eキ



昔、フランスの山中の荒れ地に、生涯をかけてただ黙々とどんぐりを植え続けた男がいました。そのどんぐりが芽を出し、大きく成長して美しい森が広がり水がもどってきましたが、2度の戦争で、森の木が伐採されます。しかし、その間にも男はひたすら木を植え続けます。

100万回生きたねこ

佐野洋子 / 作・絵
講談社 1977年 Eヒ

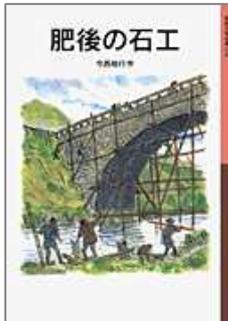


100万回死んで100万回生きたねこがいました。生まれかわるたびに飼い主が変わりますが、ねこはどの飼い主のこともきらいでした。ねこは飼い主が死ぬことも、自分が死ぬこともなんとも思いませんでした。ある時、ねこはのらねこになります。

肥後の石工

今西祐行 / 作

岩波書店 2001年 913イ



江戸時代、鹿児島^{かごしま}の甲突川^{こうつきがわ}に5つの石造りの美しいめがね橋^{いしづく}がかけられました。これらの橋には、中央の1つの石を取り外すと次々とくずれ落ち、敵の侵入^{しんにゆう}を食い止めるしかけがありました。

その秘密を守るために工事終了^{しゅうりょうご}後、石工^{いしづく}たちは郷里に帰る途中で切り捨てられたといひます。

精霊の守り人

上橋菜穂子 / 作 二木真希子 / 絵

偕成社 1996年 913ウ

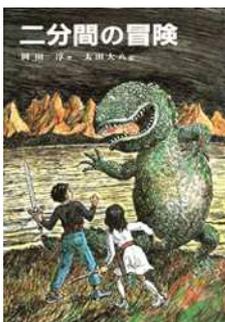


女用心棒バルサは、暗殺されかけた新ヨゴ^{あうこく}皇国の皇子^{おうじ}チャグムを偶然^{ぐうぜん}助けたため、皇子を守って逃げることになります。精霊^{せいれい}の卵を産みつけられたチャグムは、皇家^{おうけ}にはふさわしくないと、父である帝から命をねらわれ、さらに卵を食う化け物からもおそわれます。

二分間の冒険

岡田淳 / 著 太田大八 / 絵

偕成社 1985年 913オ



悟^{さとる}は保健室に行く途中で出会った黒ネコのダレカから、別の世界に飛ばされてしまいます。元の世界にもどるために、悟は消えたダレカを探し始めますが、かおりという少女と共に竜^{りゅう}のいけにえに選ばれます。悟は竜がダレカかも知れないと思い、竜の館に向かいます。

ぼうけんしゃ

冒険者たち ガンバと十五ひきの仲間

斎藤惇夫 / 作 藪内正幸 / 画

岩波書店 1982年 913サ

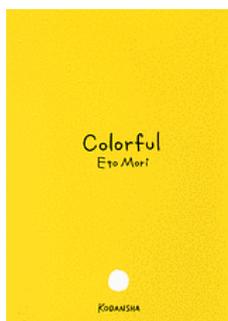


ドブネズミのガンバが、船乗りネズミの集会に参加している時、全身きずだらけの島ネズミが助けを求めに入ってきます。夢見が島のネズミたちが、イタチのノロイー族によって、全めつしかかっていると言うのです。ほとんどのネズミがしりごみする中、ガンバと仲間たちは、平和な暮らしを捨て、ノロイー族と戦う決意をします。

カラフル

森絵都 / 著

講談社 2011年 913モ



死んでしまった“ぼく”の魂^{たましい}が天上界へと向かうと中で、「おめでとうございます、抽選^{ちゅうせん}にあたりました」と天使に呼びとめられます。下界の人間の体を借りて修行をつみ、前世のあやまちを自覚できれば生まれかわることができるのです。“ぼく”は天使にガイドされながら、中学3年生の少年・小林真にのりうつります。

夏の庭

湯本香樹実 / 作

徳間書店 2001年 913ユ



クラスメイトの山下から祖母^{そぼ}のお葬式^{そうしき}の様子を聞いた“ぼく”と河辺は、人の死^{きょうみ}に興味を持ちます。近所には「もうじき死ぬ」とうわさされている一人暮らしのおじいさんがいます。死んだ人を見てみたいという衝動^{しょうどう}にかられた河辺と“ぼく”たちは、おじいさんが死ぬところを見ようと見張りはじめました。

西遊記(全3巻)

呉承恩 / 作 渡辺仙州 / 編訳 佐竹美保 / 絵

偕成社 2001年 92コ



釈迦如来によって五行山の下にふうじこめられた孫悟空が、五行山を通りかかった僧三蔵に助けられます。悟空は猪八戒、沙悟浄たちと西天の天竺国の経典を目指し、妖魔と戦い、三蔵のお供をしながら旅をします。

アリスの見習い物語

カレン・クシュマン / 著 柳井薫 / 訳 中村悦子 / 絵

あすなる書房 1997年 93ク



14世紀のイギリス。家も家族も、名前さえ持っていないやせこけた少女が、わずかな食べ物と寝る所を手に入れるため、村の産婆ジェーンにたのみこんで、産婆見習いとして働くこととなります。少女は自分をアリスと名づけ、新しい命をこの世に送り出す技術と知識を学んでいきます。

マチルダは小さな大天才

ロアルド・ダール / 作 宮下嶺夫 / 訳 クエンティン・ブレイク / 絵

評論社 1991年 93タ



小さな女の子のマチルダは、4才で図書館にある子どもの本を全部読んでしまう大天才でした。小学校に入学したある日、校長に身に覚えのないいたずらを自分のせいとされたマチルダは、怒りが爆発しそうになります。その時、マチルダに不思議な力が現れます。

歯みがきつくて億万長者 やさしくわかる経済の話

ジーン・メリル / 作 岡本さゆり / 訳 平野恵理子 / 画

偕成社 1997年 93メ



12歳の男の子ルーファスは、自分で歯みがき粉を手作りし、安く売ってもうけを出します。原材料がはっきりしていて、ねだんも安い歯みがき粉はあっという間に大評判になり、ルーファスはテレビにも出演しました。

パーラ <上・下>

ラルフ・イーザウ / 著 酒寄進一 / 訳 佐竹美保 / 絵

あすなる書房 2004年 94イ



詩人の町シレンチアの少女パーラは、物語や新しい言葉を作ることが得意です。ある日、町一番の語り部ガスパーレが、言葉をまったくしゃべることができない病にかかり、すぐにこの病は町中に広がってしまいます。

モモ

ミヒャエル・エンデ / 作 大島かおり / 訳

岩波書店 1976年 94エ



ある時、人々の暮らしの中に灰色の男たちが入りこみ、時間を節約し貯蓄することで将来のゆとりが生まれると誘います。しかし、人々は忙しさに追われ、だんだん心の豊かさを失っていきます。円形劇場の廃墟に住む少女モモは、節約した時間が戻らないという秘密を知り、ぬすまれた時間を取り戻そうとします。

ノンフィクション

変わり者 ピッポ

トレイシー・E・ファーン / 文 ポー・エストラダ / 絵 片岡しのぶ / 訳
光村教育図書 2010年 Eカ



15世紀、イタリアのフィレンツェで大聖堂のドーム建設のコンテストが行われることになりました。これを聞いて、ピッポは「待ちに待ったチャンスが来た」と思いました。「変わり者ピッポ」が、「天才ピッポ」になるまでを描いた伝記絵本。

トンネルをほる

ライアン・アン・ハンター / 文 エドワード・ミラー / 絵 青山南 / 訳
ほるぷ出版 2012年 Eト



動物たちが、トンネルをほるのを見て、人間もいろいろな目的のためにトンネルをほり始めました。今では、様々な形のトンネルが世界中にあります。また、トンネルのほり方も昔と今ではずいぶん変化してきました。

図書館ラクダがやってくる 子どもたちに本をとどける世界の活動

マーグリート・ルアーズ / 著 斉藤規 / 訳
さ・え・ら書房 2010年 01ル



世界には、バスや船だけでなく、ゾウや列車など、さまざまな移動図書館があります。ケニアのブラ・イフティンに向かう道は、砂ばくの砂のために、車が通れません。そこで、ラクダが本をとどけています。へき地に本をとどける移動図書館やボランティアの活動を写真でしょうかいしています。

ながい たかし

永井隆 平和を祈り愛に生きた医師

中井俊巳 / 著

童心社 2007年 28ナ



ながい たかし 永井隆は、長崎医科大学で医師として働いていました。昭和 20 年 8 月 9 日、原子爆弾が長崎に投下され、永井医師も被爆し、大ケガを負いましたが、多くの人の治療にあたりました。二度とこんなことは起こってほしくないという願いを世界に伝えるため、本を書き、平和の運動を世界に向けておこないました。

エンデュアランス号大漂流

エリザベス・コーディー・キメル / 著 千葉茂樹 / 訳

あすなる書房 2000年 29キ



1914 年、シャクルトンは南極大陸を徒歩で横断しようと、エンデュアランス号で出航します。しかし、エンデュアランス号は、流氷に取り囲まれて氷に押しつぶされ、沈没してしまいます。探検隊は、氷の上に取り残されてしまったのです。絶望的な状況の中、全員が生還するため、次々に立ちはだかる困難に立ち向かっていきます。

地球のてっぺんに立つ！エベレスト

スティーブ・ジェンキンス / 作 佐藤見果夢 / 訳

評論社 2001年 29シ



世界一高い山、エベレスト。この本ではエベレストがどうやってできたか、どこの国にあるか、登山者たちの歴史、登山に必要な道具や登山ルートなどエベレスト山についてのいろいろなことが、美しいはり絵でしようかいされています。

ぼくのものごたり あなたのものがたり

人種についてかんがえよう

ジュリアス・レスター / 文 カレン・バーバー / 絵 さくまゆみこ / 訳
岩崎書店 2009年 31レ



ぼくは、一つの物語を持っています。あなたは、みんなは、どんな物語を持っているのでしょうか。わたしたち一人ひとりを、かけがえのないものにしていくのは何でしょう。人種やはたの色でしょうか。それともほかに何かあるのでしょうか。

ハンナのかばん アウシュビッツからのメッセージ

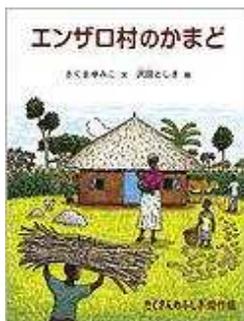
カレン・レビン / 著 石岡史子 / 訳
ポプラ社 2002年 31レ



東京の“ホロコースト教育資料センター”に^{てんじ}展示されている旅行かばんには、白いペンキで“ハンナ・ブレディ”“1931年5月16日生まれ”“孤児”と書かれています。それ以外のことはほとんどわかりません。センターをおとずれる子どもたちの^{ぎもん}疑問にこたえるため、石岡所長はハンナについて調べ始めます。

エンザロ村のかまど

さくまゆみこ / 文 沢田としき / 絵
福音館書店 2009年 33サ



ケニアのエンザロ村には、ガスも水道も電気もありません。それでも、手早くお料理を作っています。そのひみつは、“エンザロ・ジコ”と呼ばれるかまどにありました。エンザロ・ジコは、どのようにしてうまれたのでしょうか。

おっちゃん、なんで外で寝なあかんの？

こども夜回りと「ホームレス」の人たち

生田武志 / 著 下平けーすけ / 絵

あかね書房 2012年 36イ



大阪の釜ヶ崎^{かまがさき}では、子どもたちが“ホームレス”の人たちに声をかけ、おにぎりを渡し、話を聞く活動をしています。なぜ“ホームレス”とよばれる人々が存在するのか、なぜ若者による“ホームレス襲撃^{しゅうげき}事件^{じけん}”がなくなるのかを、社会の仕組みから考えます。

さよなら エルマおばあさん

大塚敦子 / 写真・文

小学館 2000年 36才



エルマおばあさんは、医者から「病気でもう長くは生きられない」と言われました。それでもおばあさんは、最後まで自分らしく生き、これまでどおりの生活を続けたいと思います。飼い猫^{ねこ}の目から見た、おばあさんの最後の1年間のすがたが写真とともにえがかれています。

みみずのカー口 シェーファー先生の自然の学校

今泉みね子 / 著 中村鈴子 / 画

合同出版 1999年 37イ



ドイツの小学校のシェーファー校長先生は、子どもたちが学校で捨てるゴミをどうすれば減らせるかを考え、“みみずのカー口”を学校に連れてきました。カー口にゴミを与えて観察すると、食べて土に変えてくれるものと、食べられないものがあることがわかりました。子どもたちは、だんだんゴミにくわしくなりました。

絵本子どもたちの日本史2 江戸時代の子どもの暮らし

加藤理 / 文 石井勉 / 絵

大月書店 2011年 38エ



江戸時代の子どもは、どんな暮らしをしていたのでしょうか。おかしを食べたり、本を読んでもらったり、病気にかかったり、今の暮らしと同じところ、違うところを見てみましょう。

シリーズはほかに、むかしむかし、明治・大正、戦争、現代と、それぞれの時代の子どもの暮らしをえがいています。

えんぴつ いっぽんの鉛筆のむこうに

谷川俊太郎 / 文 坂井信彦ほか / 写真 堀内誠一 / 絵

福音館書店 1989年 57夕

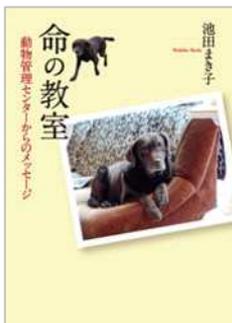


えんぴつ
鉛筆を1本作るために、数え切れないほど多くの人に関わっています。黒鉛を掘る人、木を切る人、運ぶ人、鉛筆工場で働く人、できた鉛筆を売る人、それぞれの人が仕事をしている様子や家族との生活も書かれています。

命の教室 動物管理センターからのメッセージ

池田まき子 / 著

岩崎書店 2009年 64イ



秋田県動物管理センターでは、捨てられた犬や猫の殺処分や学校への出前授業“命の教室”を行っています。授業では、ビデオで施設の様子を見せた後、送られてきた犬のようすや処分を行う職員の気持ちを語ります。また、人と動物のふれあいを通して、命の大切さをうたえる活動も行っています。

科学読み物

フリズル先生のマジック・スクールバス

ジョアンナ・コール / 文 ブルース・ディーギン / 絵 藤田千枝 / 訳
岩波書店 1995年 E



フリズル先生がおんぼろスクールバスに乗ると、不思議な遠足が始まります。バスは潜水艦やロケットやタイムマシンになって、子どもたちはいろんなことを体験します。シリーズは、水の循環、地球の内部、体の中、宇宙、海底、恐竜、ミツバチ、台風の8冊です。

ウラパン・オコサ かずあそび

谷川晃一 / 著
童心社 1999年 Eウ



1と2だけを使った数遊びの絵本です。1はウラパン、2はオコサ。1ぴきの犬はウラパン、2ひきの魚はオコサ、3ぴきのシマウマはオコサを先に数えて残りをウラパンにするのでオコサ・ウラパン。では4頭のぞうは？声に出して楽しみましょう。

しっぽのはたらき

川田健 / ぶん 藪内正幸 / え 今泉吉典 / 監修
福音館書店 1972年 Eシ



動物のしっぽには、いろいろな働きがあります。気持ちを表したり、物をつかんだり、バランスを取ったり、大活やくします。どの動物のしっぽなのか、予想してみましょう。

しずくのぼうけん

マリア・テルリコフスカ / さく　うちだりさこ / やく　ボフダン・ブテンコ / え
福音館書店 1969年 Eシ



バケツから飛び出した、ひとしずくの水。ひとりぼっちで旅に出ます。雲にのぼったり、岩の割れ目に落ちたり、姿が見えなくなったりします。しずくの変身とぼうけんのお話です。

せいめいのれきし

地球上にせいめいがうまれたときからいままでのおはなし

バージニア・リー・バートン / 文・え　いしいももこ / やく
岩波書店 1964年 Eセ



銀河系の誕生から、地球上に無脊椎動物とよばれる小さな動物が誕生して、わたしたち人間の時代になるまでの、長い長い生命の歴史の物語です。生命がはじまった古生代、恐竜が生きていた中生代、ほにゅう類が現れた新生代など、時代ごとに見ていきましょう。

雪の結晶ノート

マーク・カッシーノ、ジョン・ネルソン / 作　千葉茂樹 / 訳
あすなる書房 2009年 45カ



雪の結晶はどのようにできるか知っていますか？ はじまりは雲の中です。雪の結晶ができるまでをイラストでしょうかいしています。さまざまな形をした雪の結晶の写真や観察方法も書かれています。雪のふる日に観察してみましょう。

世界一おいしい火山の本 チョコやココアで噴火実験

林信太郎 / 著

小峰書店 2006年 45頁



火山噴火の危険をさけるには、噴火の仕組みを知っておかなければなりません。しかし、専門の言葉で説明すると、わかりにくいので、作者は食べ物を使った実験を考え出します。実験すれば、火山の仕組みが理解でき、使ったものも食べられるおまけつきです。

恐竜のけんきゅう

アリキ / 文・絵 神鳥統夫 / 訳 小畠郁生 / 監修

リブリオ出版 1999年 45頁



恐竜のさまざまな種類について、骨のちがいを比べながら説明しています。特ちょうを見分けることで、恐竜を分類することができます。絵で骨の形などを覚えれば、その恐竜がどの種類に入るのか、すぐにわかるようになるかもしれません。

ジャガイモの花と実

板倉聖宣 / 著 藤森知子 / 絵

仮説社 2009年 47頁



植物は花が咲いた後、実がなり種ができます。その種が発芽して仲間を増やしていきます。しかし、ジャガイモは、花が咲いても実はほとんどなりません。なぜ実を結ばないのか、種から育てるにはどうするかなど、自然のしくみと、それを利用する人間について書かれています。

ノラネコの研究

伊澤雅子 / 文 平出衛 / 絵

福音館書店 1994年 48イ



わたしたちの身近にいる動物でも、よく観察してみると、いろいろな発見があります。たとえば、ノラネコ。1日観察してみると、ネコ社会のルールがわかります。観察の方法やコツ、イラストを使ったまとめ方もわかる1冊です。

鳥のくちばし^{ずかん}図鑑 たべる・はこぶ・つくる

国松俊英 / 文 水谷高英 / 絵

岩崎書店 2007年 48ク



鳥にはたくさんの種類があり、くちばしの形や長さ、太さなども種類によってちがいます。くちばしは、えさを取る・巣を作る・羽の手入れをする・道具を使うなど、人間の“手”にかわる働きをするもので、生きていくために大きな役目をはたしています。

煮干し^{にぼ}の解剖教室^{かいぼう}

小林真理子 / 文 泉田謙 / 写真

仮説社 2010年 48コ

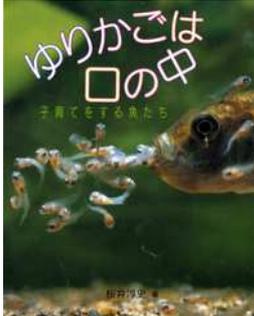


料理のだしに使う、そのまま食べてもおいしい、カタクチイワシという魚の煮干しを解剖すると、生きものの体と暮らしについて、いろいろなことが見えてきます。煮干しと白い紙があれば、読みながらすぐに解剖を体験できる本です。

ゆりかごは口の中 子育てをする魚たち

桜井淳史 / 著 岩崎保宏 / 絵

ポプラ社 2006年 48サ



動物写真家の著者は、口の中で子育てをする魚の産卵・子育ての写真を撮ろうと、家の水そうで飼い始めます。敵からねられやすいたまごや子どもを守るために、メスは口の中でたまごをかえし、外に出るようになって危険を感じると口の中に入れて守ります。

ロボ カランポーのオオカミ王

アーネスト・T・シートン / 作・絵 今泉吉晴 / 訳

福音館書店 2003年 48シ



100年以上も昔^{むかし}、アメリカのカランポーに、かしくくて強いロボというオオカミがいました。ロボが率いるわずか5頭の群れは、牧場に大きな被害^{ひがい}をもたらしたので、牧場主は銃^{じゅう}で対抗しましたが、通用しません。そこで作者はロボの行動を観察して作戦を考えました。

ファーブル^{こんちゅう}昆虫記 ふしぎなスカラベ

ファーブル / 著 奥本大三郎 / 訳・解説

集英社 1991年 48フ



フランスの昆虫学^{こんちゅう}者ファーブルは、昆虫をよく観察し、わかったことを読み物にして、昆虫記を書きました。1巻は、動物のふんを食料にする“ふん虫”のスカラベが主人公です。作者は、野外に観察に行ったり、実験をしたりして昆虫のなぞを解き明かしていきます。

絵ときゾウの時間とネズミの時間

本川達雄 / 文 あべ弘士 / 絵

福音館書店 1994年 48モ



ゆっくり動き、長生きをする大きなゾウ。忙しく動き回り、短い一生を終える小さなネズミ。さまざまな角度から、動物たちを比べていきます。この本を読むと、体の大きさと食べ物の量の関係や、寿命の長さなどがどうやって決まるのかわかります。

自然のかくし絵 昆虫の保護色と擬態

矢島稔 / 作

偕成社 1999年 48ヤ



自然界は、食べる・食べられるという関係で成り立っています。昆虫は小動物などのえさになります。そして身を守るために、まわりの背景と似たような模様に変身してかくれます。虫たちはそこにいるのに、いないように見せるのです。

ひとのからだ

毛利子来 / 著 帆足次郎 / 絵

岩崎書店 1977年 49モ



人はどのようにして生まれて成長していくのでしょうか。おへその奥はどうなっているのでしょうか。口から食べた食べ物はどこにいくのでしょうか。人の体の中を見ましょう。

宇宙をみたよ！ 宇宙へ行くと、ほんとうがみえてくる

松田素子 / 文・構成 毛利衛 / 監修

偕成社 2000年 53マ

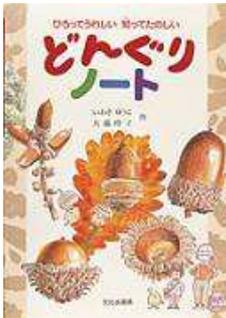


1992年、宇宙飛行士の^{もうりまもる}毛利衛さんたちをのせたスペースシャトル・エンデバーが、宇宙に向かって打ち上げられました。宇宙空間は、すべてが宙に浮いてしまう無重力の世界。食事、シャンプー、トイレなど、宇宙生活の疑問について毛利さんが教えてくれます。

どんぐりノート

いわさゆうこ / 作 大滝玲子 / 作 渡嘉敷裕 / 監修

文化出版局 1995年 65イ



どんぐりの種類ごとにイラストや写真を使って、特ちょうや自生地、動物との関わりなどが説明されています。また、どんぐりを使った工芸や料理など、いろいろな知識を得ることができます。

平成26年3月 発行
小学生へのおすすめ本リスト
宗像市教育委員会図書課

〒811-3437 福岡県宗像市久原400番地

TEL : 0940-37-1321 FAX : 0940-37-2956

Eメール : tosyo@city.munakata.fukuoka.jp